

栃木県スポーツ推進計画 2025 概要版

-とちぎスポーツ推進プラン-

教育委員会事務局スポーツ振興課

第1章 計画の概要

1 計画策定の趣旨(P1)

令和4(2022)年に開催する、いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会(以下「両大会」という。)に向け、県民のスポーツに対する関心が高まる中、「する」「みる」「ささえる」といったスポーツに参画する人口を増やし、県民総スポーツ社会の実現を目指すため、本県のスポーツに関する施策を総合的かつ計画的に推進する「栃木県スポーツ推進計画2025」を策定する。

2 計画の位置付け(P1)

スポーツ基本法に基づき、国の「第2期スポーツ基本計画」を参酌し、栃木県重点戦略「とちぎ未来創造プラン」及び「栃木県教育振興基本計画2025」に掲げる将来像の実現に向けたスポーツ分野における計画として位置付けられる。

3 計画の期間(P2)

令和3(2021)年度～令和7(2025)年度

4 本計画におけるスポーツの捉え方(P2)

本計画における「スポーツ」は、スポーツ基本法などを踏まえ、以下のように幅広く捉えることとする。

- ・一定のルールに則った勝敗や記録を競うことを目的とした運動競技(例:陸上競技等)
- ・余暇時間等における健康・体力の保持増進を目的とした身体活動(例:ウォーキング等)
- ・気晴らし、楽しみ及び交流を目的とした身体活動(例:スポーツ・レクリエーション活動等)
- ・仕事や家事の最中の健康・体力の保持増進、美容などを目的に意識的に実施する身体活動(例:通勤等での一駅歩きや自転車の活用等)

第2章 現状と課題(主なもの)

1 スポーツ参画人口の拡大をめぐる現状と課題

(1) 子どもの体力とスポーツ活動の現状と課題(P3～7)

- ・現代の幼児は体を動かして遊ぶ機会が減少していることから、自発的に遊びを中心とした身体活動ができる環境づくりが必要
- ・本県児童生徒の体力は、全国と比較して低い傾向がみられることから、自ら進んで運動やスポーツに取り組める機会等の充実が必要

(2) ライフステージに応じたスポーツ活動の現状と課題(P7～9)

- ・女性、「働き盛り世代」や「子育て世代」のスポーツ活動実施率が低いことから、気軽にスポーツ活動に取り組むことができる環境づくりが必要
- ・高齢化が一層進展している中、安全にスポーツ活動に取り組める環境づくりが必要

(3) 「みる」「ささえる」スポーツの現状と課題(P9～11)

- ・トップアスリートの姿を間近に見ることでスポーツの価値が実感できることから、県内プロスポーツなどの観戦の更なる周知が必要
- ・両大会後のスポーツボランティアの仕組みづくりが必要

2 スポーツ施設の充実とスポーツによる地域活性化をめぐる現状と課題

(1) スポーツ施設の整備の現状と課題(P12~13)

- ・両大会に向け整備したスポーツ施設を有効に活用していくことが必要
- ・両大会の開催を機に得られるレガシーを地域活性化などにつなげていく取組が必要

(2) いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会の開催に向けた取組状況(P14)

- ・県民運動「いちご一会運動」の更なる推進が必要
- ・両大会後も気軽にスポーツ活動に親しめる環境づくりの充実が必要

3 国民体育大会・全国障害者スポーツ大会や国際大会等で活躍する選手の育成をめぐる現状と課題

(1) アスリートの現状と課題(P15~16)

- ・いちご一会とちぎ国体に向け、トップアスリートが本県を拠点に練習に取り組んでいるが、大会終了後も本県において活動できる支援が必要
- ・障害者スポーツの裾野は広がっているが、今後も、選手の発掘、指導者の育成や練習環境の向上が必要

(2) 競技力の現状と課題(P16~20)

- ・国体の成績は、令和元(2019)年は天皇杯 18 位、皇后杯 26 位と目標には達していないため、更なる強化が必要

(3) 競技力向上のための環境の現状と課題(P20~21)

- ・選手等は企業などに勤務していることが多くいちご一会とちぎ国体に向け練習時間の確保が必要
- ・「とちぎスポーツ医科学センター」を活用し、医・科学的な知見に基づいた競技力の向上を図ることが必要

(4) スポーツの高潔性や健全性（スポーツ・インテグリティ）の現状と課題(P22)

- ・スポーツに対する健全なイメージを損なうことがないよう、スポーツの高潔性や健全性を高めるための取組が必要

第3章 基本的な考え方

1 基本理念(P23)

「スポーツを通じて夢や感動を共有しスポーツで人生を豊かにする“とちぎ”の実現」

2 計画における重要な3つの施策の柱(P24)

今後取り組んでいく施策を3つの柱として以下のように体系的に取りまとめ、これらの柱のもと、15の基本施策を位置付けた

施策の柱1 スポーツ参画人口の拡大

施策の柱2 スポーツ施設の充実とスポーツによる地域活性化

施策の柱3 国民体育大会・全国障害者スポーツ大会や国際大会等で活躍する選手の育成

第4章 基本施策における主な取組内容

施策の柱1 スポーツ参画人口の拡大

基本施策1 子どもの運動習慣の定着と体力の向上 (P25~26)

- ・幼稚園等への指導者派遣による親子で体を動かす機会づくりの推進
- ・体力・運動能力調査の分析等による体育・保健体育の授業等の工夫・改善
- ・ICTの活用による楽しみながら運動に取り組める環境づくりの推進
- ・とちぎスポーツ医科学センターによる体力データの解析と学校現場へのフィードバック

基本施策2 多様なニーズに応じた運動部活動の推進 (P26~27)

- ・合同部活動等の取組の推進
- ・学校と地域が協働・融合した形での部活動環境の整備
- ・部活動指導員や運動部活動補助員の配置による指導の充実
- ・危機管理マニュアルに則った大会運営の支援

基本施策3 高齢者スポーツの振興 (P28)

- ・高齢者が取り組みやすいスポーツ・レクリエーション活動の普及の促進
- ・ロコモティブシンドロームの予防等についての情報発信
- ・「ねんりんピックとちぎ」等の参加の促進による高齢者の生きがいと健康づくりの推進

基本施策4 女性のスポーツ参加の促進 (P29)

- ・子育て中の女性が気軽にスポーツに親しめる環境づくりの促進
- ・スポーツ関係団体等の女性指導者が公認指導者資格取得を目指せる環境づくりの促進
- ・各競技団体等における女性役員登用の促進

基本施策5 障害者スポーツの振興 (P30)

- ・県障害者スポーツ大会の充実等を通じた障害者スポーツへの理解の促進
- ・バリアフリー化の情報等の周知による身近な体育施設の活用促進
- ・障害者スポーツ選手の育成・強化、指導者の養成と資質の向上

基本施策6 スポーツ活動の推進と充実 (P31~32)

- ・働き盛り世代、子育て世代等が取り組みやすいスポーツ・レクリエーション活動の普及・啓発
- ・プロスポーツの試合観戦など「みる」スポーツの周知・推奨
- ・スポーツボランティアへの参加の推奨等によるスポーツを「ささえる」機会の充実
- ・身体的距離の確保などの基本的感染症対策を講じたスポーツ活動の促進

基本施策7 スポーツを通じた健康増進 (P33)

- ・ウォーキングやサイクリングなど取り組みやすい環境づくりの推進
- ・仲間同士で身体を動かす取組等による健康意識の向上
- ・運動習慣の定着を通じた生活習慣病の発症予防の推進

基本施策8 総合型地域スポーツクラブの質的充実 (P34)

- ・総合型クラブの持続可能な運営体制への支援
- ・地域住民のスポーツニーズに応えられる多様なプログラムの作成促進
- ・地域において運動部活動を担える環境づくりの推進

施策の柱2 スポーツ施設の充実とスポーツによる地域活性化

基本施策9 スポーツ施設等の整備と利活用の促進 (P35~36)

- ・両大会に向けた県立スポーツ施設の整備の推進
- ・両大会のレガシーの継承に向けた環境整備
- ・県立スポーツ施設の有効活用と市町スポーツ施設の情報発信

基本施策10 スポーツの成長産業化・スポーツを通じた地域活性化 (P36)

- ・大規模大会や国際大会、事前キャンプ地等の招致
- ・プロスポーツの観戦や応援等を通じた交流人口の拡大
- ・各種自転車関連イベントの開催等を通じた観光地づくりの推進

基本施策11 いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会の開催及びレガシーの継承 (P37~38)

- ・両大会に向けて各市町で開催されるスポーツイベント等による機運の醸成
- ・両大会を契機に整備された施設等の活用による地域スポーツの振興
- ・各市町で開催する競技種目の定着化

施策の柱3 国民体育大会・全国障害者スポーツ大会や国際大会等で活躍する選手の育成

基本施策12 次世代アスリートの発掘・育成・強化 (P39~40)

- ・将来性のある児童の指定による次世代トップアスリートの育成支援
- ・品格と資質を兼ね備えたジュニア期の指導者の養成
- ・特別支援学校との連携等による障害者スポーツ選手の育成

基本施策13 トップアスリートの強化・確保 (P40~41)

- ・トップアスリートの県内定着の促進
- ・とちぎスポーツ医科学センターの活用による指導者の資質の向上
- ・障害者スポーツ選手・団体の強化指定

基本施策14 競技力向上のための環境整備 (P41~42)

- ・両大会に向けた、選手等が強化練習会等に参加しやすい環境の整備
- ・とちぎスポーツ医科学センターを活用した選手へのサポート

基本施策15 安全でクリーンでフェアなスポーツの推進 (P43)

- ・競技団体の統治能力（ガバナンス）の強化と法令遵守（コンプライアンス）の徹底
- ・スポーツの高潔性や健全性（スポーツ・インテグリティ）を高める指導者の養成

■推進指標

推進指標	基準値(2020年)	目標値(2025年)
全国体力・運動能力、運動習慣等調査における小学5年生及び中学2年生の体力合計点の本県平均値と全国平均値の差	小5 男子：▲1.17点 女子：▲0.10点 中2 男子：▲0.37点 女子： 0.35点 (2019年度の結果)	全国平均値を上回る
成人の週1日以上スポーツ活動実施率	53.5%	65% (国の目標)
大規模大会や国際大会の招致	—	複数回招致する
国体での天皇杯・皇后杯の順位	天皇杯 18位 皇后杯 26位 (2019年の成績)	2022年は天皇杯皇后杯を獲得しその後も19位以内を維持する